

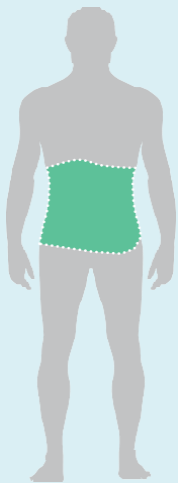
全層熱傷の治療にRECELLシステムを使用し、標準的治療に比べ採皮面積が縮小

CASE STUDY / James H. Holmes IV, MD, FACS / Wake Forest Baptist Medical Center, Winston-Salem, NC

患者の状態

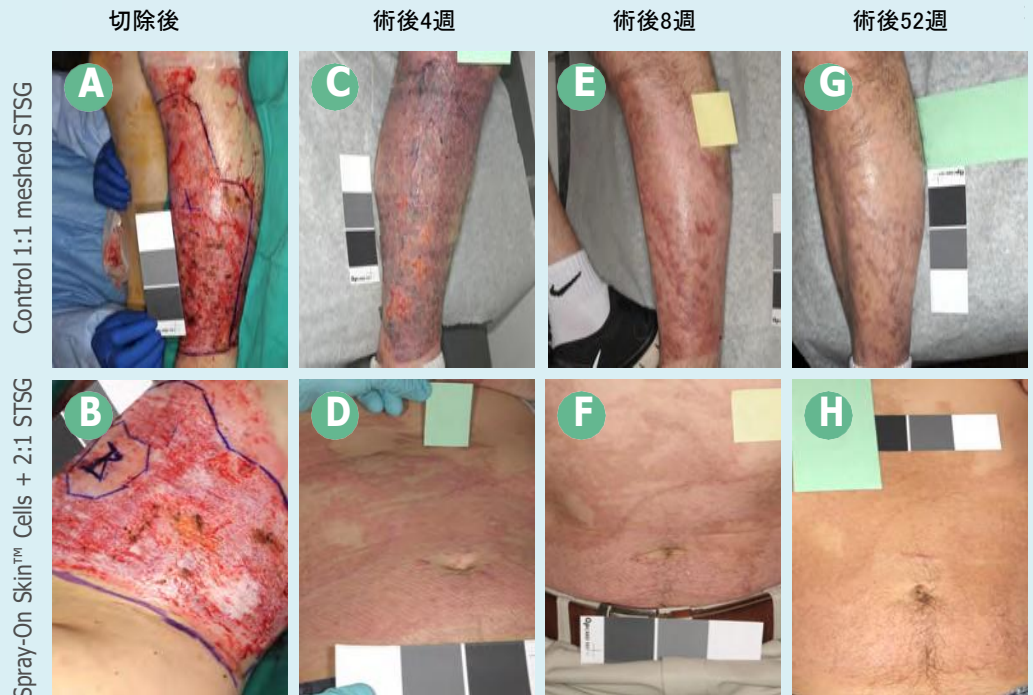
腹部と下肢に全層熱傷を受傷した41歳男性。本症例では、左足を1:1自家網状分層植皮 (STSG) で治療し、腹部は2:1 STSGと Spray-On Skin[™] Cellsを併用し、その比較を行った。

RECELL治療部位



結語

本症例で、網状STSGと Spray-On Skin[™] Cellsを全層熱傷の治療で併用すると採皮面積が27%縮小し、完全上皮化もコントロール群では8週間かかったところ4週間で得ることが出来た。癒痕や長期的皮膚強度についてもまた良好な結果が得られた。



治療法

この患者の治療は、前向き無作為化比較試験の一環として実施された。全ての治療部位に接線切除を実施し、無作為化を行った(図A&B)。1:1網状STSGを下肢に移植し、コントロール部位とした。RECELLシステムを使用し、Spray-On Skin[™] Cellsを作成、これを腹部に移植した2:1自家網状植皮の上から噴霧した。どちらの治療部位もTelfa[™] ClearとXeroform[™]、保護用包帯で被覆を行った。

臨床的アウトカム

Spray-On Skin[™] Cellsを2:1網状STSGと併用する事で2:1網状STSGに比べ27%の採皮面積縮小が可能となった。コントロール部位では8週間かかった(図E)が、RECELL治療部位では術後4週目で100%上皮化が得られた(図D)。

術後52週に患者と観察者による治療部位評価基準 (POSAS) を用いて2つの治療部位の癒痕の比較評価を実施 (図G&H); スコアは同等であった。長期的な皮膚強度に関する問題は報告されていない。

本紙に掲載している症例は、臨床成績の一部を紹介したものです。全ての症例で同様の効果を保証するものではありません。

